

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2370301315
法人名	北医療生活協同組合
事業所名	生協あじまの家グループホーム
訪問調査日	平成20年9月17日
評価確定日	平成20年10月20日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2370301315
法人名	北医療生活協同組合
事業所名	生協あじまの家グループホーム
所在地	名古屋市北区中味鏡3-807 (電話) 052-909-4188

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年9月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 4人, 非常勤 15人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	3階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(108,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		
協力医療機関名	北医療生協あじま診療所				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人は万人のため、万人は一人のために」の生協の心を介護の分野で実現するために、北医療生活協同組合が設立したグループホームであり、医療面でのサポート体制ができています。建物は3階建てで、1階にはデイサービスセンター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションが併設されており、2階、3階がグループホームとなっている。ホームの名称である『あじまのいえ』の頭文字を取った理念「あんきに暮らすふるさとのよう じんわりほんわか陽だまりのよう まごころあふれる優しい瞳のんびりゆったり いつだって 笑顔がひかる私のおうち」を基に、地域の中でその人らしく暮らし続け、支えることを目指している。日頃から入居者の様子(誕生会、行事、レクリエーションなど)の写真を撮り、家族の訪問時に入居者と家族と一緒に見て話ができるようアルバムを作成している。年に3回家族学習会を開催し、家族同士の交流の場になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善点について会議で話し合いができることから取り組んだ。運営推進会議に地域包括支援センターの職員がメンバーに加わり、市町村との関わり合いもでき、介護計画書や記録様式の変更、消防署職員の立会いで避難訓練を行うなど改善に向け取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をするにあたり、臨時職員会議を開いて話し合いを行い全職員が取り組んだ。自己評価に取り組むことで「いつも行なっているつもりでも、改めて考えさせられ見直しができた。自分のケアの見直しの機会になった。」と職員は話していた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2カ月に1回家族代表、医師、地域包括支援センター職員、地域住民、管理者、2階責任者が参加して開催している。会議では事業所の活動状況や行事予定、外部評価の報告など行い、参加者から質問や意見、アドバイスを得て双方向的な会議になっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問時に職員は声をかけ、要望や意見を聞くよう心がけている。また、年3回の家族学習会での交流時にも聞き、出された要望、意見などは職員会議で話し合い、運営に反映している。ホーム入口に意見箱「虹の箱」を設置し、苦情相談窓口や外部の相談窓口については入居時に説明を行っている。家族の要望で6月に家族参加の水族館への外出が実現した。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時に地域の人との挨拶を心がけ、近隣のお店(スーパー、コンビニ、うどん屋、喫茶店など)を利用することで馴染みの関係ができています。8月に地域の方々にホームを知っていただくことを目的に「あじまの家宵まつり」を開催し、250名程の参加があり入居者が接待して、じゃんけん大会など一緒に楽しんだ。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2年前に全職員と生協組合員と共に、「医療生協の介護」の目標から、ホームの頭文字「あじまのいえ」を取った分かりやすい事業所独自の理念をつくりあげた。皆が家族のように何でも言え、喧嘩をしても許し合い、集えてほっとできることを大切に、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下の壁に大きな字で掲示し、毎日使用する業務日誌にも書いてあることで意識の向上に努めている。また、職員会議で理念について話し合ったり、唱和したりして確認し合っている。職員は入居者のペースに合わせて、笑顔で目を見ながらゆっくり話を聞いてから対応するなど、理念を念頭に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。北医療生協の関連事業所でのお楽しみ会や夏祭りに入居者も参加し、地域の組合員と交流している。散歩時には地域の人と気軽に挨拶を交わし、近隣の喫茶店、うどん屋、スーパーなど利用することでより馴染みの関係ができています。保育園児が遊びに来てくれたり、10月には小学生の職場体験があり、入居者は子どもとの触れ合いを楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をするにあたり臨時会議を開いて話し合いを行なった。その後各自で取り組み全職員が提出した。職員から「書くことがとても難しかったが、自分のケアを見直すことができた。」との声があった。前回の評価結果についても会議で話し合い、改善に向けてできることから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の10月から地域包括支援センターの職員がメンバーに加わり、家族代表、医師、地域住民、管理者、2階責任者の参加のもと、2カ月に1回開催している。会議では事業所の活動状況や入居者、職員の状況、行事予定、外部評価の報告などを行い、参加者から質問や意見、助言を受け、サービスの向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には人事異動などの報告で出向いた際、事業所の状況を伝え、情報を収集するよう努めている。また、区役所から空き状況の問合せ電話があり、事業所からも経営のことで相談しアドバイスももらっている。地域包括支援センターの職員が「認知症サポーター養成講座」の講師として家族学習会に来てくれた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者毎に担当職員が入居者の様子を書き、全体のお知らせ、写真を掲載したグループホームニュース「すずらん」と金銭出納帳、領収書のコピーを送付している。家族の訪問時に職員は入居者の生活の様子を伝えると共に家族の様子も聞くよう心がけている。なかなか来れない家族に対してや、緊急時など何かあればその都度電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との交流の場としての家族学習会の開催時に、意見や要望などを聞いている。また、職員は家族の訪問時に声をかけ話を聞くよう努めている。家族からもよく聞いてくれると高い評価を得ている。ホーム入口に意見箱「虹の箱」が設置され、開封は中立性を保つために第三者（院所利用委員会）が行なっている。家族の要望で6月に家族参加の水族館への外出が実現した。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に声をかけ、話を聞くよう心がけており、働きやすい職場づくりに努めている。新人職員は教育担当者に付き添い、教えてもらいながら入居者に不安を与えないよう配慮している。また、職員が入居者担当制になっていることで、より馴染みの関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月学習担当者がミニ学習会を行ったり、法人内での介護学習会や医療生協の通信教育を受講してスキルアップを図っている。外部研修に参加した時は報告書を記入し、職員会議で報告を行なっている。日常生活の中で分からない時は先輩職員に教えてもらったり、職員同士でアドバイスをしながら支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し、研修に参加することで交流を図り、情報収集を行なっている。法人内での話し合いや研修会への参加、グループホーム同士でお互いに見学し合うなど、サービスの質の向上に努めている。6月の家族参加の外出行事では他事業所の計画書を参考に実現することができた。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の後、本人や家族にホームへ見学に来てもらい、数時間入居者とおやつや食事と一緒に食べて過ごし、少しでもホームや職員に馴染んでもらえるよう工夫している。希望があれば体験入所もできるが、併設のデイサービス利用から入居されるケースが多く、本人にとっては通いながら馴染んでいくことができる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、洗濯物たたみ、アイロンがけ、掃除などできることを職員と一緒にしない、料理方法や女学生時代の校長先生の言葉など教えてもらうなど、共に過ごし支えあう関係を築いている。訪問時、昼食の準備で畑から収穫してきたさつま芋の茎の皮取り、もやしの根取りをしている姿がうかがえた。職員が忙しそうに動いていると、「忙しそうだね、大変だね。」と労いの言葉をかけてくれることがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は勤務開始時に入居者一人ひとりに声をかけ、その日の表情や体調など把握するよう努めている。また、日々の関わりの中で傾聴を心がけ、会話の中から本人の希望や意向などよく聞いて対応するよう努めている。把握が困難な場合は生活歴や趣味、得意なことなど考慮して検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の要望を聞き本人の希望も取り入れて、それを基にカンファレンスで話し合い、職員のアイデアや意見も反映させてその時点にそった介護計画を作成している。センター方式の用紙に記入した情報もプランに取り入れている。</p>		<p>家族にはできあがった計画を見せ説明しているが、入居者がどのようなサービスを受けているのかを認識し、説明を受けたことを意識する上でも介護計画に家族から同意の印をもらうことが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化に応じてカンファレンスで見直しをしている。カンファレンスの内容は連絡ノートで職員に伝えている。介護計画の書式を改めたことでプランに即したものになり職員は一層意識してプランに取り組むようになった。</p>		<p>見直しの折には家族に意向や状況を確認しているが今後、計画見直しの際も家族に文章で見直しを確認されることが期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>1階デイサービスセンターの行事に出かけ見学したり参加して入居者は楽しんでいる。在宅支援診療所と医療連携がとれており、定期往診がある。心配なことがあるといつでも電話で連携をとっている。在宅支援診療所と契約すると24時間対応できるシステムを利用できる。入居者は全員希望で契約をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には本人、家族が希望するかかりつけ医に家族同伴で受診しているが家族が同伴できない場合は職員が同行することもある。難しいケースや症状が安定していない時に新しい科に診療する場合は看護師が主に付き添い医師の話を直接聞いている。泌尿器科、メンタルクリニック、皮膚科、眼科のかかりつけ医に受診している入居者もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>症状悪化や加齢に従い出現してくる生活能力低下と併せ、認知症の進行に伴い身体機能の衰えにそなえ入居時に特別養護老人ホームへの入所申し込みを同時併行で勤めている。家族学習会でも担当医師から重度化についての話があった。本人、家族の希望を聞きながら医療機関と連携しているがホームで基本医療ができなければ対応は難しいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライドの配慮や個人情報の保護、守秘義務について職員で話し合いをしている。トイレ介助や居室への入室、入浴介助などにプライバシーを損なう言葉かけや対応をしないように心がけている。介護記録など個人情報に関する書類は目に触れないようカーテンのかかる場に保管している。個人情報の取り扱いについては個人情報保護法の主旨を尊重し慎重に行なうよう心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れはあるが、本人のペースを大切に業務優先ではなく、入居者一人ひとりの状態や思いに合わせることを基本にしている。いろいろな行事に参加する機会があり、声かけはするが無理強いはず、本人の気持ちを尊重しその人らしく暮らせるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや芋、芋茎の皮むきなど食事の準備を手伝っている。配膳、下膳、食器洗い拭きと積極的に楽しみながら行なっている様子が見られた。食事は親しい仲間同士で惣菜を分け合ったり、話らいながら楽しんでた。誕生日会には好みのメニューが取り入れられ皆で祝い食している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴をする人、入浴時間や順番に希望のある人には添うようにしている。入浴を拒否する人に脱衣室で清拭や足浴をしているとついでに入ろうかという気になることがある。入浴という言葉に抵抗を感じる人もいるので、言葉を工夫していくことも考えている。入浴は職員と1対1でゆっくり話ができ、歌ったり、寛げる楽しい時間になっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ワイシャツにアイロンをかけたたり、雑巾縫いなど縫い物に生活歴や得意な力を活かしている入居者もいる。トランプやゲーム、ぬり絵などを毎日楽しんでいるグループもある。仲間に入りにくい入居者には職員がおはじきやお手玉と一緒に楽しんで皆が張り合いや喜びのある日を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑へ野菜の収穫の様子を見に行ったり日用品やおやつを買う、喫茶店へ行くのを楽しんでいる。入居者一人に職員が一人つくようにし、週に2~3回戸外に行けるよう努めている。以前、入居者の馴染みだった店へ職員も一緒に行ったことがあるが、これからも都合のつく時は行くように考えている。外出の苦手な人が車椅子での外出を楽しむようになった。自宅へ外泊される方が数名いる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物が道路に面しているので安全のため、入り口の自動ドアを手動操作にしている。外出する入居者に対しては職員が開閉を対応している。自分で開けられる入居者もいるので、職員は安全を見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、消防署の協力を得て避難誘導、訓練を実施し指導を受けた。消火設備使用法の指導も受け、消火設備の定期点検も行った。昨年は入居者が入り口ドアまで移動訓練をしたが、次は職員2人での介助移動や外までの避難訓練を行いたいと考えている。		食糧や飲料水の備蓄は賞味期限を考え、1日分しか準備されていないが期限に応じて古くなったものを普段賞味し新しいものに取り替えるなどして、最低3日分ほどの備蓄をされることに期待したい。ホームだけの訓練でなく、地域住民の理解と協力が得られるよう声かけをされていくことが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニューを見てもらいカロリー計算をしてもらったり、アドバイスをいただいている。普段はメニュー委員会が毎月、メニューや栄養バランスを検討している。食事制限のある人は今はいない。食事摂取量と水分摂取量は毎日、記録し把握している。水分は1日1,000ccを目安に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節を取り入れた花や貼り絵が飾られている。写真コーナーがあり、いろいろな行事で入居者が楽しんでいる表情や情景を見ることができる。幼稚園児が描いた絵も貼ってある。ソファの位置も入居者の状況により居心地よく過ごせるよう配置を考えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや洋服かけが置かれ壁には家族の写真や塗り絵がかけてある。家族が持ち寄った置物が飾られたり、テレビを置いている入居者もいる。置かれている馴染みの物からその人らしく過ごせるよう工夫されていることがうかがえた。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。